

MSセミナー
2020年3月14日
小倉KMMビル



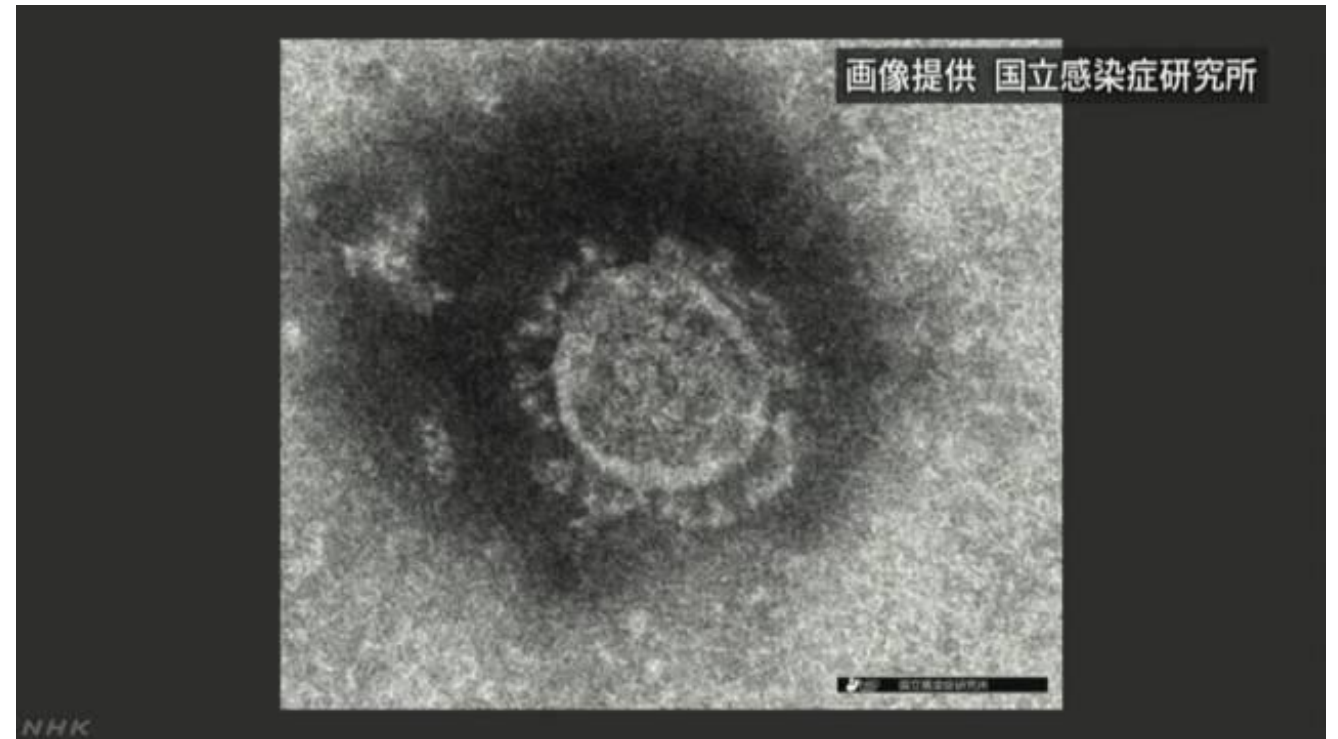
COVID-19について 情報アップデート



KRICT理事長
松本哲朗

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）

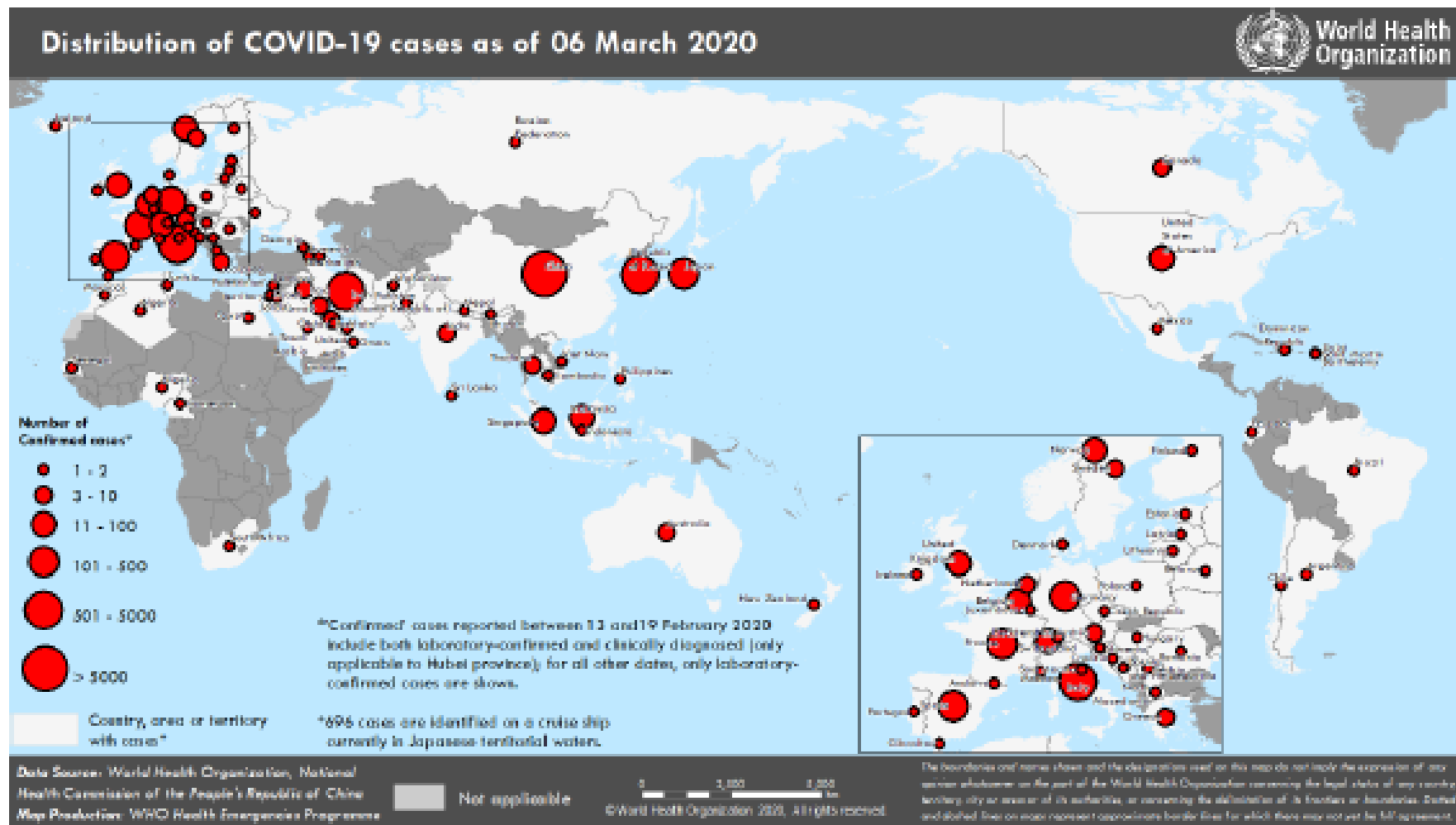
しばしば起こる新興感染症：感染症との戦いは、永久に続く



SARS-CoV-2

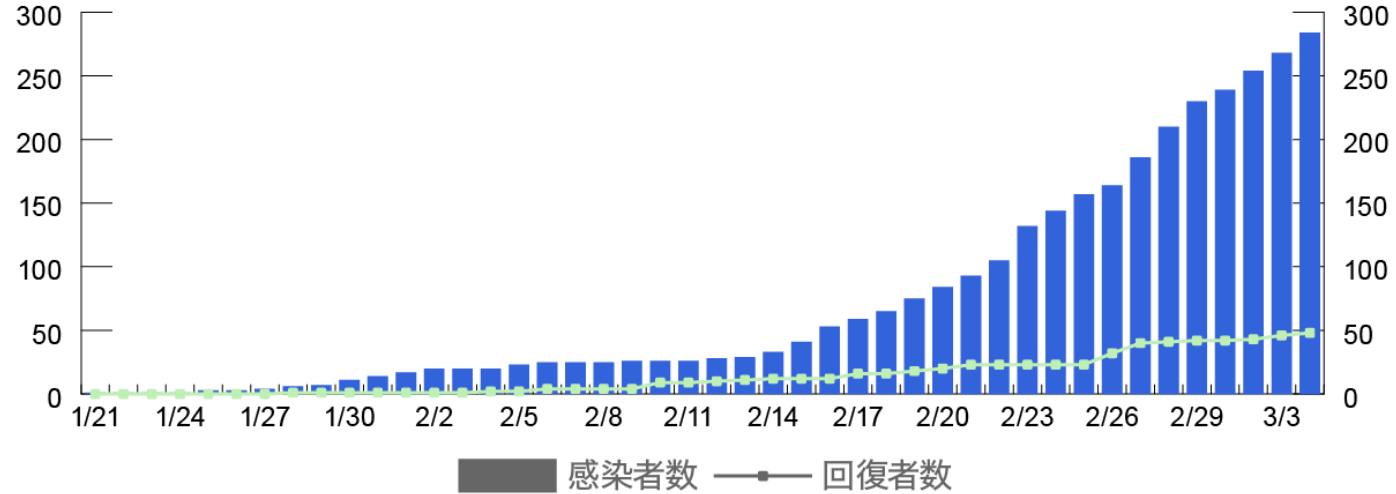
やっとパンデミック宣言

Figure 1. Countries, territories or areas with reported confirmed cases of COVID-19, 06 March 2020

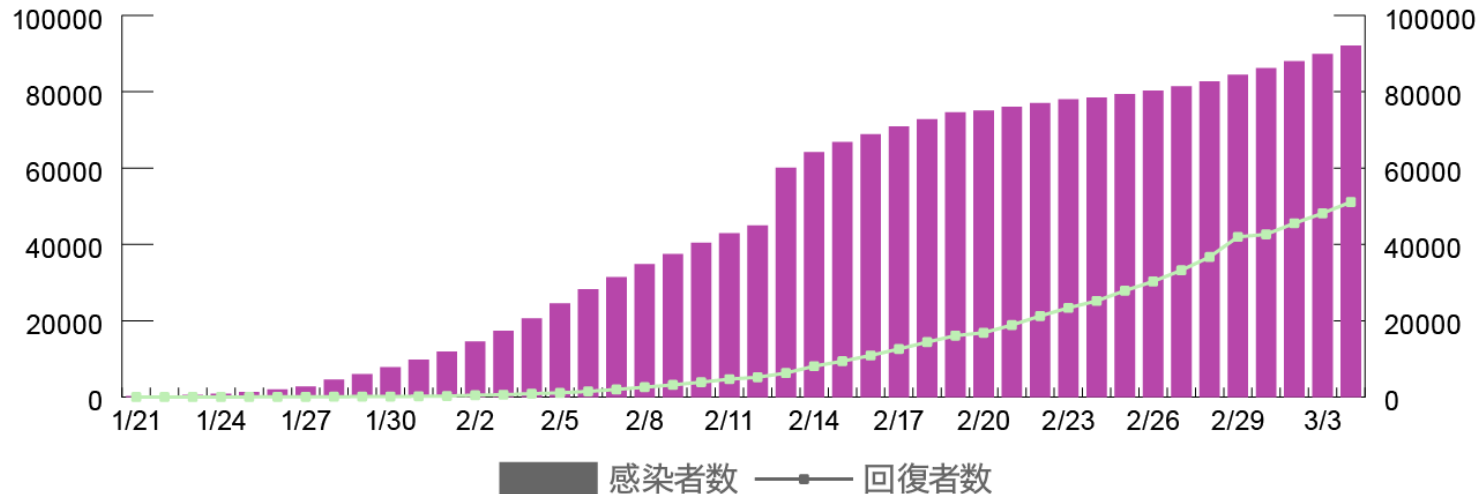


COVID-19感染者

国内感染者数



国外感染者数



※2月13日以降の国外感染者は計算方法が変わっています(中国における、症状のみで判断した感染者数を含む)

感染者と死亡率比較

(2020,3,12)

	感染者 (人)	死亡者 (人)	死亡率 (%)
中国本土	80,778	3,158	3.9
海外合計	117,062	4,273	3.7
日本	620	15	2.4
クルーズ船	696	7	1
韓国	7,755	60	0.7
イタリア	10,149	631	6.2
イラン	8,042	291	3.6
フランス	1,784	33	1.8

中国の死亡率の報告

武漢 5.7%

その他の地域 0.7%

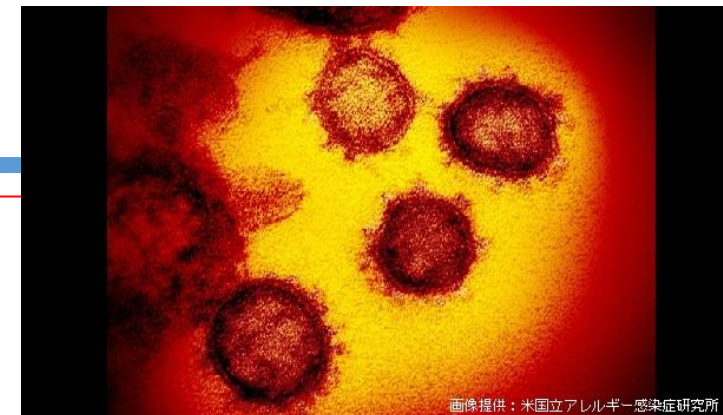


季節性インフルエンザ 0.1%

WHOの見解：感染性はインフルエンザより低い、死亡率は高い

医療崩壊？

コロナウイルス



特徴

- ・ RNAウイルス
- ・ 表面にエンベロープを有する→アルコールが良く効く
- ・ RNAウイルスの中では、最も大きい
- ・ ヒトや鶏では、呼吸器感染症を引き起こすが、牛・豚では下痢を起こす。
ペットの犬が感染（香港）

コロナウイルス亜科

アルファコロナウイルス属

約9種類

ベータコロナウイルス

約10種類

デルタコロナウイルス属

約3種類

ガンマコロナウイルス属

約2種類

ヒトの病原体となるコロナウイルス

アルファコロナウイルス属

Human coronavirus 229E:風邪の病原体

Human coronavirus NL63:風邪の病原体

ベータコロナウイルス属

Human coronavirus HKU1:風邪の病原体

Human coronavirus OC43:風邪の病原体

SARS関連コロナウイルス

SARS-CoV

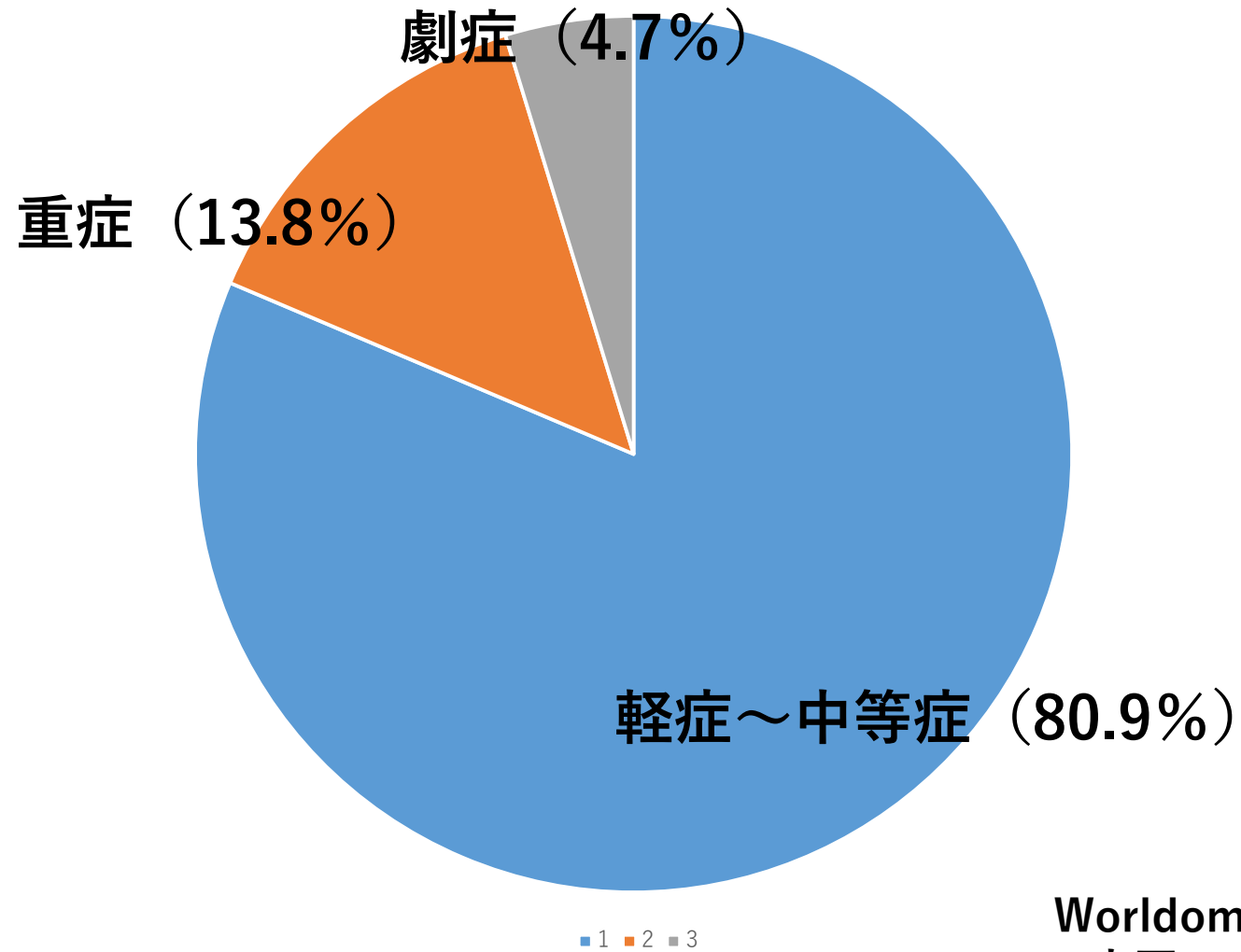
COVID-19 (SARS-CoV-2)

MERSコロナウイルス (**HCoV-EMC**) Wikipedia 2020/3/3

基本再生産数

麻疹	空気感染	12~18
百日咳	飛沫・接触感染	12~17
水痘	空気感染	8~10
ジフテリア	飛沫感染	6~7
天然痘	飛沫・接触感染	5~7
ポリオ	経口感染	5~7
風疹	飛沫感染	5~7
おたふく風邪	飛沫感染	4~7
インフルエンザ	飛沫感染	2~3
新型コロナウイルス	飛沫・接触感染	1.4~2.5
SARS	飛沫・接触感染	2~3
MERS	飛沫・接触感染	< 1 (市中)

COVID-19の重症度



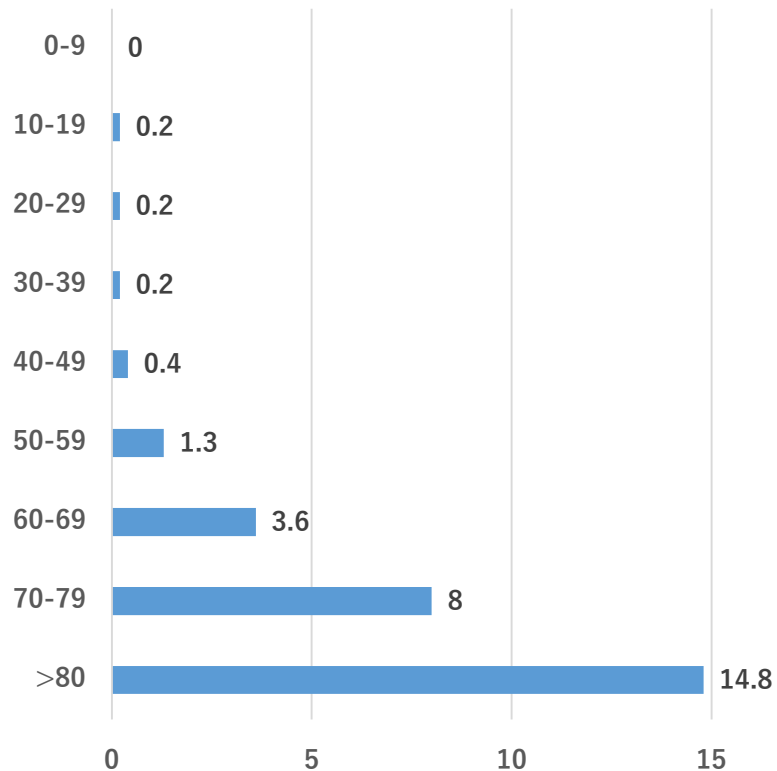
Worldometer, Feb 23, 2020
中国、72,314例の集計より

年齢、性別、基礎疾患とCOVID-19症例の死亡率

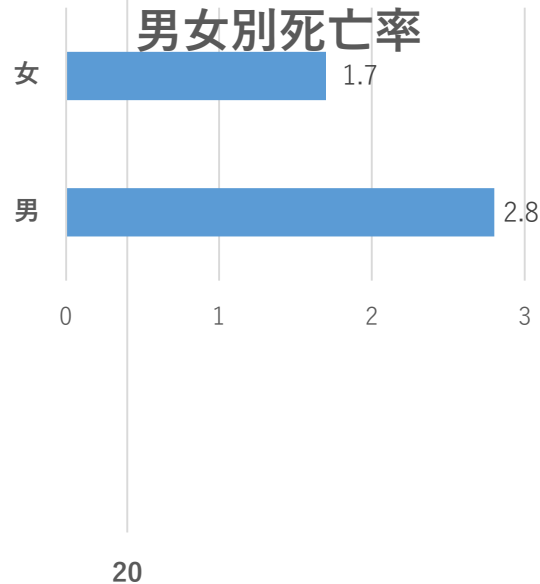
Worldometer, Feb 23, 2020

中国、72,314例の集計より

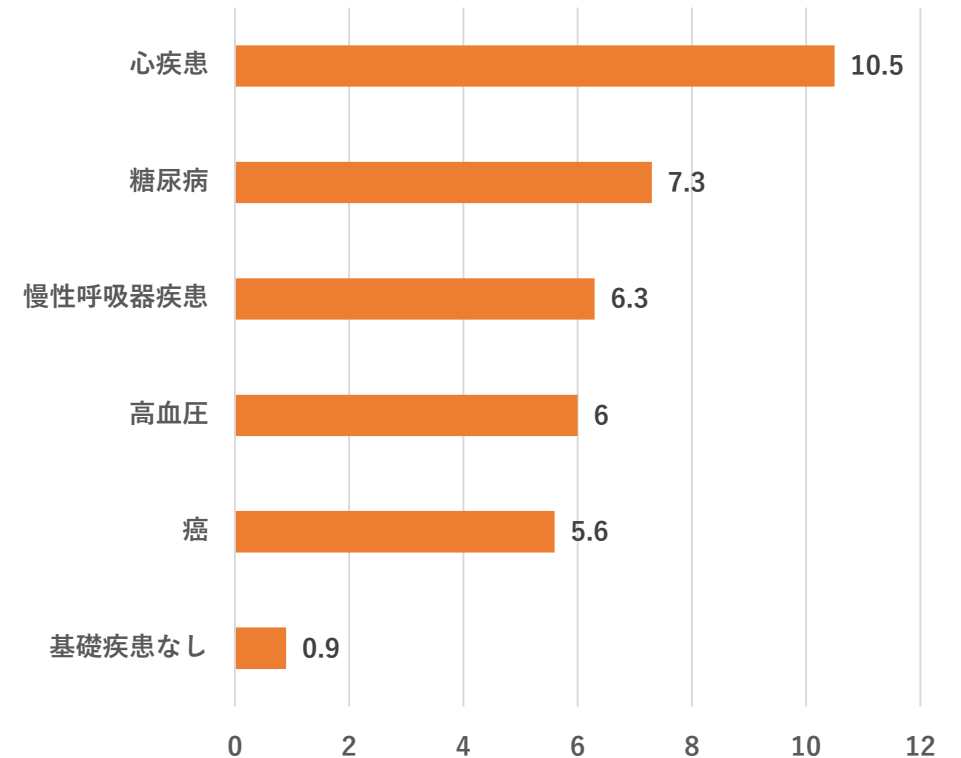
年齢別死亡率



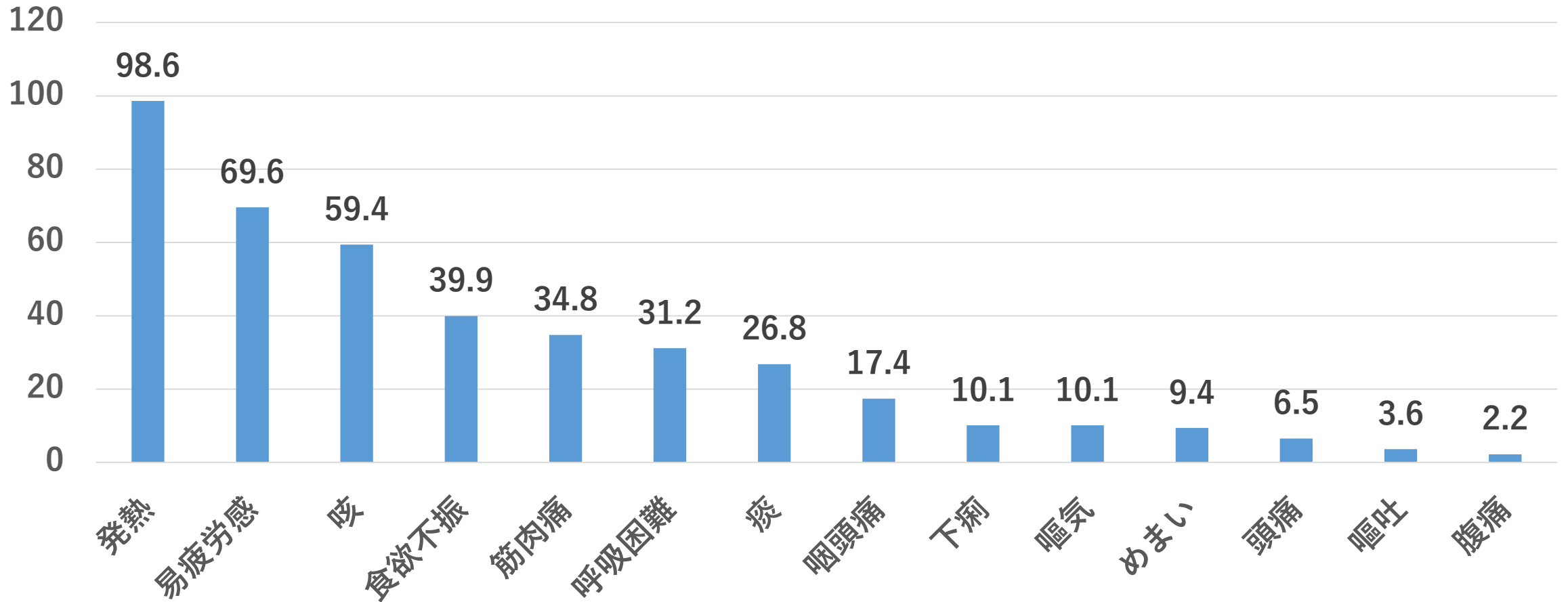
男女別死亡率



基礎疾患と死亡率



COVID-19の症状



かぜ症状



呼吸困難、咳・痰



人工呼吸管理など



発症～1週間程度

8割の患者は軽症のまま治癒

1週間～10日

20%の症例で肺炎症状が増悪し入院

10日以降

約2-3%で致命的

発症

1週間前後

10日前後

日本の症例報告では、比較的軽症例も肺炎を起こしている例が多い

Yahooニュース

本市 1 例目

- ・ 令和 2 年 3 月 1 日 新型コロナウイルス陽性と判明
- ・ 患者情報：60 歳代、男性、人工透析中、海外渡航歴および明確な接触歴なし
- ・ 経過：11 日前咳で発症、2 日後発熱、5 日後呼吸困難を伴い、医療機関入院、4 日後症状改善せず転院、肺炎の診断で検査、新型コロナウイルス陽性と判定
- ・ 現在：県内の感染症指定医療機関へ入院、クロロキン投与し、改善
- ・ 調査：接触者検診にて、二次感染なし

本市におけるCOVID-19感染症に対する医療体制

1. 帰国者・接触者相談センター：保健所内に設置
2. 帰国者・接触者外来：市内の感染症指定病院および協力病院（16病院）の内5施設に順次設置
（帰国者・接触者相談センターにて振り分け、検査などを行う）
3. 入院可能施設：市内の感染症指定病院および協力病院
状況に応じて、保健所等と相談の上、重症度や基礎疾患等により振り分ける



蔓延期になれば、各医療機関で対応

感染者と死亡率比較

(2020,3,10)

	感染者 (人)	死亡者 (人)	死亡率 (%)
中国本土	80,778	3,158	3.9
海外合計	117,062	4,273	3.7
日本	620	15	2.4
クルーズ船	696	7	1
韓国	7,755	60	0.7
イタリア	10,149	631	6.2
イラン	8,042	291	3.6
フランス	1,784	33	1.8

死亡率から見た感染者数

死亡率を0.7%とすると
国内 2,126人
北九州市 3.4人

死亡率を1%とすると
国内 1,488人
北九州市 2.4人

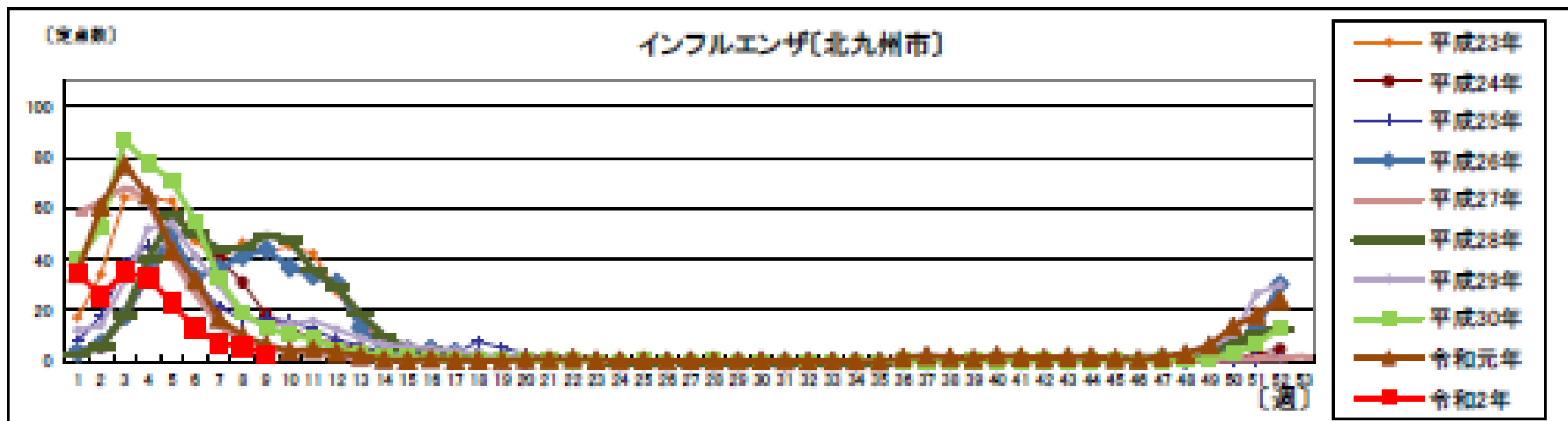
中国の死亡率の報告

武漢 5.7%
その他の地域 0.7%

見えない影に怯え過ぎない!!

今シーズンは、インフルエンザが非常に少ない

インフルエンザ等定点推移グラフ〔平成23年～令和2年〕



COVID-19治療の候補薬

- 抗HIV薬 LVP/r (Lopinavir/Ritonavir) (カレトラ) 内用液
日本で3例中1例で効果との報告あり
- 抗インフルエンザ薬 ファビピラビル (アビガン) 錠剤
効果不明だが、数か国で治療に使用中？
- 抗エボラ薬 レムデシビル
(第3相臨床試験、USAアラバマ大学)
WHO：最も有効性が期待できると期待
- 気管支喘息用ステロイド シクレソニド (オルベスコ) 吸入薬
日本で3例で有効
- 抗マラリア薬 クロロキン (プラケニル) 錠剤

症例

ロピナビル・リトナビルで治療した新型コロナウイルス肺炎(COVID-19)の症例報告

¹⁾国際医療福祉大学熱海病院 糖尿病代謝内科

²⁾国際医療福祉大学熱海病院 脳外科 ³⁾国際医療福祉大学熱海病院 外科

宮下 馨¹⁾ 篠永 正道²⁾ 池田 佳史³⁾

症例 71歳 女性 CTにて肺炎像あり、発熱、咳嗽、咽頭痛著名となり、**カレトラ**投与翌日より、下痢著明となるが、2日後より解熱し、急速に症状が改善

カレトラに関する国立国際医療センターの報告（第1報）
肺炎患者は、7例に使用し、**約半数に良好な反応**

症 例

COVID-19 肺炎初期～中期にシクレソニド吸入を使用し改善した 3 例

¹⁾ 地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立足柄上病院総合診療科 ICD・感染管理室長補佐

²⁾ 同 総合診療科部長 ³⁾ 同 総合診療科 ⁴⁾ 同 副院長 感染管理室長

⁵⁾ 愛知医科大学客員教授 (AMED「ウイルス性重症呼吸器感染症に係る診断・治療法の研究」) 主任研究者

岩渕 敬介¹⁾ 吉江浩一郎²⁾ 倉上 優一³⁾

高橋 幸大³⁾ 加藤 佳央⁴⁾ 森島 恒雄⁵⁾

クルーズ船にて、陽性となった患者8名を入院させた。

2名は無症状のまま、陰性化し退院

6名に、酸素化不良とCTにて肺炎所見あり

6名中3名は、重症化し、高次医療機関へ転送

症例1 73歳 女性、当初より肺炎所見あり、LPV/ r 投与するも、下痢、肝機能異常の副作用にて
シクレソニドへ変更、急速に改善

症例2 78歳 男性 当初酸素化良好であったが、3日後に酸素化悪化し、シクレソニド投与し、翌日
より症状改善

症例3 67歳 女性 入院途中から肺炎所見あり、シクレソニド投与し、翌日より症状改善

投与後すぐに症状が劇的に改善している。

感染症誌

新型コロナウイルス（COVID-19）肺炎を来した血液透析患者に対して クロロキンを投与した一例

南 順也、肥山 和俊、永崎洋司、下野 信行

日本感染症誌 2020

69歳 男性 タクシー運転手 糖尿病性腎症で血液透析中

- 2月14日 発熱、咳嗽 インフルエンザの診断、抗インフルエンザ薬にて解熱
- 24日 再度発熱、翌日から呼吸困難 肺炎として抗菌薬投与 呼吸困難悪化し、転院
- 3月1日 新型コロナウイルス検査にて、陽性と判定 抗菌薬、抗インフルエンザ薬の投与
- 2日 肺炎像増悪 **ヒドロクロロキン硫酸塩（プラケニル）** 投与
- 5日 解熱、軽快

我々にとって、今最も大事なこと

北九州およびその周辺での医療体制を崩壊させないこと

→市立医療センター、市立八幡病院にすべて押し付けない

→協力体制を作る

→発熱者・呼吸器症状の患者を、帰国者・接触者外来にすべて送るようなことはしない

→自施設でできることは、できる限りやる

北九州地区の利点は、色々な規模の病院が多く、ベッド数も多い

自施設でやること：いつものインフルエンザ対策と一緒に

標準予防策・接触感染防止策の徹底：手洗いの励行、咳エチケット、動線の工夫
(最近のインフルエンザ院内感染の特徴は、職員の持ち込み→職員の健康管理を十分に)